

# フレンドリー

## FRIENDLY



### リトアニアNOW2022 日リトアニア友好100周年文化交流イベント

# リトアニア音楽ファミリーコンサート

■主催/岐阜県 ■協力/(公財)大垣国際交流協会、岐阜・リトアニア友好協会、(公財)岐阜県国際交流センター



Labas!!  
こんにちは

▲日本のジャズマンとリトアニアのクラシック奏者「Labas!カルテット」のみなさん



▲リトアニア出身の岐阜県国際交流員ゲドレ・ドルスカイテさんとリトアニア紹介コーナー



### ～リトアニア紹介～



©Lithuania Travel



◀聖アンナ教会

こんにちは(やあ)  
**Labas**  
ラーバス  
ありがとう  
アチュー  
**Aciu**  
さようなら  
ヴィンゲロ  
**Viso gero**



▲ガルヴェ湖に浮かぶトラカイ城

面積:6.5万km<sup>2</sup>(日本の約1/6)  
人口:約281万人(日本の約1/44)  
首都:ピリニウス(ピリニウスの旧市街地は世界遺産に登録されている)  
公用語:リトアニア語



岐阜県では、「命のビザ」の発給で知られる県出身の外交官、杉原千畝氏を縁にリトアニアとの交流を進めており、「リトアニア Now」のイベントを県内各地で開催しています。  
その一環として、8月22日(月)に、スイトピアセンターのスイトピアホールにて「リトアニア音楽ファミリーコンサート」を開催し、36人が参加されました。日本とリトアニア友好100周年を記念して発足された「Labas!カルテット」のみなさんによる楽しいコンサートでした。リトアニアの曲や「子犬のワルツ」などのクラシック曲に加え、「森のくまさん」や「かえるの合唱」など親子で楽しめる曲目もあり、一緒に踊ったりマラカsWith音を出したりと、親子で楽しんでいただけたようです。((公財)大垣国際交流協会は、このコンサート運営に協力しました)

## 米国オレゴン州 ビーバートン高校、チャーチル高校と 大垣東高校、大垣西高校との高校生オンライン交流

大垣市のフレンドリーシティである米国オレゴン州のビーバートン市とユージーン市とは、高校生の相互交流をしています。当協会では、令和元年度まで高校生のオレゴン州への派遣事業を実施してきましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、令和2年度以降交流が中止となりました。

そこで、高校生同士が交流の機会を持てるように、令和3年度からオンライン交流を始めました。派遣事業で訪問させていただいているユージーン市のチャーチル高校と大垣西高等学校、ビーバートン市のビーバートン高校と大垣東高等学校がそれぞれオンラインで交流をしています。

今年度も継続している中で、6月18日にオレゴン州日本語教師会による「オレゴン州と日本の高校生のオンライン交流イベント『友だちフェア』」が開催され、大垣東高等学校の英語部生徒を中心とした有志が参加しました。



▲お絵描きゲーム（日本の有名なキャラクターを言葉とジェスチャーで説明し、アメリカの高校生が当てるゲーム）をしました。



▲一人一台のタブレットを使って、好きなお菓子などを紹介

### 【参加した大垣東高等学校の生徒の感想】

- ・楽しかった。でも、好きなアニメやアメリカの高校生が興味を持っていることなど、もっと話をしたかった。
- ・タブレットで学校内を紹介したツアーでは、自動販売機にとっても興味をもっていただけた。反応してくれてうれしかった。
- ・リアルタイムで話せるのが楽しい。日本について興味を持っていてくれる高校生がいることがうれしかった。
- ・もっと英語が話せるようになりたい。



今年度は、各高校間で、オンライン交流やビデオレターの交換を予定しています。

## 外国人市民の防災学習

講師：岐阜県外国人防災リーダー 長瀬由信氏

今年度も外国人のみなさんが日本語を学ぶ日本語教室を開催しています。その中で、7月3日と31日には大垣市の防災学習を行いました。ブラジル出身で岐阜県外国人防災リーダーの長瀬由信氏を講師に、地震や水害に関する情報や災害にあつたらどのような行動をするべきか、日頃できる準備についても教えていただきました。

また、ハザードマップを使って、自分の家や会社の周りの危険を調べました。2階まで浸水する可能性のある地域に住んでいることが分かった人は、「大雨のとき、どこへ逃げますか？」と聞くなど、防災について関心を持ってもらう機会になりました。

講師からは「災害にあつたらパニックになります。近所の人と普段からつながりを持つことで、災害時に一緒に避難することができます。普段からあいさつをするなど、関係づくりをすることが大切です」というメッセージがありました。

今年度は、10月と1月にも実施予定です。



▲ハザードマップを使って、自分の家や会社の周りの危険度を調べました。日本語教室の見学に来てくれた高校生のみなさんも一緒に参加。



▲水、食料など必要なものを入れた避難袋を背負ってみました。思っていたより重たいことがわかりました。



▲ゴーグル型のVRを使って水害時の避難を疑似体験しました。（協力：中部地域づくり協会）

## GWY 発足 40 年の歩み

岐阜県世界青年友の会  
会長 森 秀樹

岐阜県世界青年友の会 (Gifu World Youth) は、1982 年 3 月に設立以来、今年で 40 年になります。

先日、7 月 23 日には設立 40 周年を記念し、当日は元駐マレーシア日本大使館特命全権大使の宮川眞喜雄先生をお招きし記念講演をして頂く予定でしたが、講演の前日にご家族がコロナに感染し、先生は濃厚接触者となってしまい急遽来垣が出来なくなり、自宅からのオンラインでの記念講演となりました。講演内容は「国際事情とこれからの国際交流」と題し、世界の地殻変動（新たな対立の時代）から最近のウクライナ情勢と国際関係への影響などに関するもので、誠に時宜を得たものでした。続いてこれまでお世話になった関係者の皆様や全国の友の会代表者による記念交流会が開かれ、これまでの活動を振り返り、今後の更なる発展を誓い合いました。



▲40周年記念式典の様子

本会は設立以来、今日まで 40 年間にわたり外務省、文部科学省関連機関の青少年、指導者事業、JICA 青年研修事業、青年の派遣事業、カナダ文化交流協会、その他国内外の団体との協力、交流を行い、国際的な相互理解、友好親善を深めるための活動を続けてきました。

特に、青少年教育を通しての教育セミナーは、欧米の先進諸国だけでなくアジア、太平洋諸国、中南米、アフリカと 5 大陸（100 か国、5,000 人）に及び、国際交流、国際協力へと展開しています。



▲2021年 多文化共生フォーラム スピーカーと会長以下事務局メンバー

なかでもイギリス、オーストラリア、カナダ、ドイツとの青少年指導者セミナーや青少年交流から「西濃ケント青少年交流事業」、5 大陸から日本語を学ぶ大学生を招へいし、岐阜県 3 大学との日本語による「世界学生フォーラム」、そして JICA 事業によるアジア諸国の青年との「教員セミナー・企業セミナー」からマレーシア教育省との教育セミナー、University of Wollongong College Hong Kong (旧香港城市大学専上学院) との夏季日本語研修事業など多くのプロジェクトを生み出しました。更に岐阜県下の在住外国人による多文化交流事業にも力を入れています。

世界中から音楽、演劇、芸術活動の分野で著名な芸術家を招いて公演活動をするほか、来日した外国人に日本文化を紹介する活動もしています。



▲ドイツ・カニジウスオーケストラ日本公演

また国際交流に関わる他団体との連携事業を積極的に行い、通訳、翻訳、ホームステイ、ホームビジット、日本文化紹介など充実した事業遂行を図っています。そのほか、国際理解講座、企業研修、



▲ホームステイ家族と共に

スタディーツアーなども行っています。

更に広報活動・情報提供事業も積極的に行っています。GWYでは独自にウェブサイトを経営し、自身の活動や参考になる外部情報をウェブサイトを通じて広報しています。

ただ、ここ数年はコロナ禍のため、残念なことに海外との交流が停止され対面交流はできませんが、Zoom オンラインで日本語研修事業や、国際理解講座を実施しています。早くコロナが収まり活発な活動の再稼働を願っています。

## 日本語ボランティア交流会

7/18 (月・祝日) 参加者 11人

日本語学習支援ボランティア登録者の方を対象として、日本語学習支援に関する「ミニワークショップ」と「交流会」を開催しました。

名古屋市にあるセントラルジャパン日本語学校の柏谷涼氏にアドバイザーをお願いしました。ミニワークショップでは、「ボランティア活動をしていて、うれしかったこと、大変だなと思うこと」、「日本語学習支援のボランティアをするときに最も大切なスキルを2つ考えよう」など、いろいろなテーマについてグループで意見交換をしていただきました。

また、交流の時間には、お互いにどのように活動されているかなど、情報交換に話が弾みました。

次は、11月に第2弾を開催予定です。



## 「多文化共生フォーラム」 ～比べてみよう世界の食と文化～

岐阜県世界青年友の会主催(大垣国際交流協会共催)で、岐阜県に在住する7か国出身の方が、母国の食と文化や日本との違いを発表するフォーラムが6月26日(日)に開催されました。



イタリア、インドネシア、バングラデシュ、フランス、ブラジル、ベトナム、リトアニアの7か国を紹介しました。

当協会日本語を学習しているハスニアンティ・エディさんが、母国インドネシアの食文化について発表しました。

インドネシアは1万7,000以上の島から成る島国で、約300の民族の人が住んでいて、島や民族によって言葉や文化が異なること、料理に「スパイス」をよく使うこと、日本料理はやさしい味なので平均寿命が長いと思うなど、とても興味深い話でした。

## ご報告

令和4年度もフレンドリーシティ派遣及び受入事業を予定しております。しかしながら、新型コロナウイルスが未だ収束を見込めないことやウクライナ情勢を踏まえ、派遣対象者である小中学生及び高校生の安全を最優先に考えた結果、中止することといたしました。

来年度以降、海外渡航ができる状況になれば交流事業を再開しますので、みなさまのご応募お待ちしております。

## 大垣市在住外国人の国籍別人数表

総数:5,709人 3月号(令和4年2月末)との比較 310人増

|        | 令和4年8月末 | 令和4年2月末との比較 |
|--------|---------|-------------|
| ブラジル   | 2,246   | -39         |
| 中国     | 1,132   | -8          |
| ベトナム   | 637     | 96          |
| フィリピン  | 549     | 64          |
| 韓国又は朝鮮 | 280     | 1           |
| その他    | 865     | 196         |
| 合計     | 5,709   | 310         |

総人口に占める割合 3.6%

## 編集後記

令和4年度のフレンドリーシティ派遣及び受け入れ事業の中止が決定しました。

新型コロナウイルスとウクライナ情勢の影響が、世界経済や人々の生活を苦しめている現在、一日も早く自由で幸せなフレンドリーの世界になることを、誰もが願っています。

このような状況下、「リトアニア音楽ファミリーコンサート」を開催することが出来ました。リトアニアの演奏者(バイオリンとコントラバス)と、日本のジャズマン(ピアノと歌)のカルテットのみなさんの演奏会に、未就学児や児童生徒が家族と一緒に参加された会場は、普段のコンサートと違った雰囲気で、参加者と演奏者が語り合う、リラックスした楽しいコンサート会場になりました。その様子がフレンドリーの表紙になりました。

また、オレゴン州ビーバートン市の高校生と大垣東高校生徒とのオンライン交流が実施されました。現在は、この方法で交流を続け深めています。

「岐阜県世界青年友の会」が40周年を迎えられ、関係者の方々の努力の内容が掲載されています。

このような時期ではありますが、実施された事業を紙面でお伝えしております。いつの日か、国際交流が自由にできる平穏な世の中になりますように。

## 今後の予定

- 10/9 外国人市民の神輿体験(十万石まつりへの参加)
- 10/15～12/10 英語基礎会話講座
- 11/5～12/24 フランス語基礎会話講座
- 11月 日本語ボランティア交流会  
国際理解ワークショップ(フランス編)
- 12月 外国人市民のための日本語教室(レベル1、レベル2)
- 1月 国際理解ワークショップ(リトアニア編)  
ドイツ語基礎会話講座
- 2月 ボランティアの集い
- 3月 機関誌「フレンドリー」発行
- 通年 マンツーマン方式日本語学習支援(休館日を除き毎日)  
にほんごおしゃべりルーム(毎週日曜日)  
オンラインにほんごおしゃべりルーム(毎月第1日曜日)  
外国人市民のための行政手続き相談(毎月第1日曜日)  
ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)  
外国人市民のための法律相談(毎月第4日曜日)

# フレンドリー No.94

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会  
〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地  
スイトピアセンター学習館2階  
TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314  
<http://www.i-oiea.jp/>  
[E-mail]oiea@mb.ginet.or.jp



発行／2022年9月 印刷／サンメッセ株式会社

ホームページQRコード

